

能登半島地震

北陸・石川県中心に甚大な被害

多くの方がのんびりと穏やかに過ごそうとしていた元日の夕刻、最大震度7の地震が北陸地方を襲い、日本海沿岸に津波警報が出されました。被害は1月29日時点で死者236人、負傷者1,523人、避難者14,563人、住宅被害19,283棟と甚大な状況です。石川県支部代表からご報告をいただきました。



地震関連資料（避難所での支援・生活ガイド等）リンク集
<https://www.alzheimer.or.jp/?p=61551>

能登半島の大地震～石川県に来てください。それも支援です。

石川県支部代表 飯田 芳枝

2024年1月1日午後4時10分の能登半島を震源とした震度7の大地震。ここ数年能登半島は地震が続いておりこの大地震の予兆だったのでしょ

うか？
 死者は県内で230名余り、行方不明の方もあり、亡くなられた方の冥福を祈るとともに被災された方々にお見舞い申し上げます。会員で穴水町、能登島（七尾市）の方は半壊に近く住める家ではありません。実家が能登町の方は納屋や農機具の破損で春の田んぼが出来るでしょうか？一人暮らしをしている親を心配し、数時間もかけ金沢から被災地の七尾市に迎えに行った会員もいます。今も断水・停電が続いており入所している施設から他の施設への移動希望を言われた会員もいます。避難先の環境も断水は続いており感染症等健康問題が心配です。

この地震に際し、本部始め隣県、宮城県からは早速電話・メール・faxで心配、激励、そして義援金までいただきました。ありがとうございます。私事で申し訳ないのですが、何度も地震は体験していますが、今回程怖く感じたことはありません。孫と二人でいたので、孫のコートを持ち、ともかく外に飛び出し孫を抱き「父さん助けて」とつぶやき落ちてから、能登に住む知人の心配をしていました。こんな心情から、皆さまの電話も上の空。正直対応が辛かったです。友人から1週間

後に電話にて、「少しは落ちついた？大丈夫？」と。息子は「心配はわかるけど、母さん何できる？電話するな！」と言われメール送信のみにしました。その方は、輪島市河井町朝市の方で1週間後やっとメールが届き、全焼したが命は助かりました、と。安堵しましたが何もできないもどかしさと風呂に入れること、暖かい布団で眠れることに罪悪感です。

今の私に出来ることは、元気でいて能登に行くこと。そして知人等に会うことです。義援金も大事。また県内被災が少ない金沢等では普通の経済活動をし、石川県を元気にすることかなと思っています。

全国の皆さま、是非石川県に来てくださいね。来てくださることが被災地への元気と故郷で再度住むことへの後押しにもなるのでは？と思います。

1月のつどいは実施してよいのか？できるのか？と思いましたが、会員の被災状況を確認していく中で、こんな時だからこそ、会員の思いや情報交換が必要と確信し18日18人の参加で行えました。全国の皆さまから心配していただき本当にありがとうございます。石川の会員元気に乗り越えます。乗り越えたいです。

能登はやさしや 土までも そして能登の人は頑張り屋
 令和6年1月26日

「令和6年能登半島地震」被災会員への義援金のお願い

下記の郵便振替・銀行口座への振込みでのご支援をお願いします。

■郵便振替口座

(郵便局備付け払込取扱票をご利用ください)
 口座名義 家族の会義援金
 口座番号 00980-4-146638

■銀行口座

銀行名 京都信用金庫 (金融機関コード1610)
 店名 西陣支店 (店番005)
 口座番号 普通 3033757
 加入者名 公益社団法人認知症のひと家族の会

「災害救援基金」について

自然災害等により被災された会員に対して見舞金を送る「災害救援基金」への申請を常時受け付けています。会員からの申請に基づき、支部で取りまとめ、常任理事会で被害状況を判断し、見舞金をお送りしています。申請には被害状況が確認できる写真、調査書が必要になります。支部にお問合せください。

多様な認知症の

今とこれから

全12回

今回の意味性認知症は、言葉の意味がわからなくなる、伝えたいことがあるのにうまく言葉にならないなど、コミュニケーションに対して困難が目立つ特徴があります。言葉がわからなくなるといわれてもどうということ？ と思ってしまいます。また、名称を初めて聞く方もいらっしゃるかと思います。谷向知先生からお話をいただきました。

第11回 意味性認知症

愛媛大学大学院医学系研究科 老年・精神地域包括ケア学 教授 谷向 知

●はじめに

認知症でみられる物忘れ(記憶障害)は、「最近の出来事を忘れる」といわれます。その例として、何を食べたのかだけでなく、食事をしたという自分の体験(エピソード記憶)をすっかり忘れてしまっているというのが特徴とされています。しかし、意味性認知症では、エピソード記憶は保たれるのに対して、言葉の意味や概念といった自分で培ってきた知識(意味記憶)が障害されるのが特徴です。アルツハイマー病は日記に書かれた内容が消えていってしまうのに対し、意味性認知症では辞書の項目(単語)が抜け落ちてしまうというようなイメージで多くの認知症でみられる物忘れとは異なります。

●意味性認知症の初期の特徴

最初、この病気は脳の側頭葉とよばれる場所の先端部が主に侵されます。みなさんご存じのように脳は左右に分かれていますから、どちらに病気が起こるかで初期にみられる症状は違ってきます。

まず左の場合には、言葉の症状がみられます。たとえば、「利き手」を尋ねると『“ききて”といいます

と?』という返事が返ってきます。そこで「お箸はどちらの手で食べられますか?」と尋ねなおすと、『それ“ききて”っていうんですか。もちろん右ですよ』といったような返事が返ってきます。また、鉛筆を見て、「えんぴつ」という言葉が出ない場合、「え」とヒントを出しても答えられなかったり、鉛筆と伝えても、『これ、「えんぴつ」っていうのですか?』といわれ、初めて耳にした言葉のように振舞われます。しかし、数分後に同じ鉛筆を見て答えていただくと、「“えんぴつ”言うんやろ。さっき教えてもらった」といわれたりしますので、診察のやり取りは憶えていることからエピソード記憶は悪くありません。ただ、長さや色が異なる鉛筆をみせると、その鉛筆は初めて見るものですから、半信半疑で“えんぴつ”と答えられたり、まったく答えられない場合もあります。これは、新たに鉛筆という概念をつくることができないために起こります。また、鉛筆をボールペン、ジャガイモを人参というように言い間違い(錯語)がみられます。さらに、海老を“かいろう”、五月雨を“ごがつあめ”と読むなど特殊な読み方をする熟語をただしく読めなくなったり、ことわざの意味がわからなくなったりします。

右の場合は人の顔の区別がつかなくなります。検査してくれた人の名前は憶えているのに、何人かいる中からその人に気づくことができません。このような方は、人の顔を見ずに、名札を手掛かりに捜そうとするのが特徴です。

左右どちらから病気が起こった場合にも、長い経過の中でそれぞれの症状が混同してきます。

● 意味性認知症の経過

初期には意味記憶の障害が中心ですが、この時期に受診されたり、診断に至っておられる方が多いとはいえません。むしろ発病して3年が経過したころから行動異常型前頭側頭型と同じように、決まった時刻に決まった行動を繰り返す常同行動、状況にそぐわない場違いな言動(脱抑制)、食行動の変化、無関心・自発性の低下がみられます(会報11月号参照)。そのような症状がみられてようやく診断されている方もずいぶんおられます。

● 意味性認知症のケア

この病気では、言語症状のため会話がうまくいなくなり介護者だけでなく、初期には本人も『頭がおかしくなった』と訴えられることが多く、自分の症状を取り繕うとするような言動はあまりみられません。初期には言語リハを行うことがありますが、残念ながら言葉の概念をつくることができないために効果は限定的です。家族の意思疎通をよくするために、自分で使うお茶碗や眼鏡、愛犬の名前などの写真を撮っていただきカードの表に貼り、その裏に“おちゃわん”“めがね”など書いて覚えていただくことで自宅内の会話はスムーズにいくことがあります。顔がわかりにくい方には、まず名前を名乗ってからかわかることで、誰であるかわかるので安心していただくことにつながります。

プロフィール



たにむかい さとし
谷向 知

愛媛大学大学院医学系研究科
老年・精神地域包括ケア学 教授

- 1989年 大阪大学医学部卒業。
- 1994年 大阪大学大学院医学系研究科博士課程修了。
- 1997年 兵庫県立高齢者脳機能研究センター老年精神医長。
- 2000年 国立療養所中部病院(現:国立長寿医療研究センター)精神科ともの忘れ外来を立ち上げる。
- 2003年 筑波大学臨床医学系精神医学講師。
- 2007年 愛媛大学医学部脳とこころの医学准教授。
- 2013年 愛媛大学大学院医学系研究科老年・精神地域包括ケア学教授。

日本老年精神医学会専門医・指導医・代議員、認知症のひとと家族の会愛媛県支部顧問など

ものの位置や形がゆがんで認識されることはありませんので、数独やパズル、塗り絵などは得意です。集中してされるのでこれを行っている間はケアに神経をとがらせなくていい時間をもつことができます。

進行していく認知症ですが、意味性認知症の早期に診断する意味のひとつは、いろいろな行動面の変化が出てくる前から、それを見越して家族がかかわりやすく、社会的に容認されるような生活習慣を身に付けていただくことができることです。なかなか融通がきかず、大変なところもありますが、ある程度行動が先読みできますので、こつをつかみ、周囲の人の理解があれば、ケアのやりがいがある認知症といえます。

65歳までに発病される認知症に多く、前頭側頭葉変性症として難病127に指定をされています。医療面だけでなく、いろいろな制度を利用してケアを行っていただきたいと思います。

次号の連載最終号は神経原線維変化型認知症を取り上げます。山田正仁先生からご執筆いただきます。

本人登場

私らしく
仲間とともに
No. 220

愛媛県在住 **宮脇 勝**さん (61 歳)



大学卒業後、関西のスーパーに勤務、持ち前の明るく積極的な性格から、労働組合の支部長も務めました。もの忘れや仕事のミス、浮遊感などの自覚症状が出てきました。56歳の時、兄の勧めで、故郷の松山に帰り、2022年からは、えひめ認知症希望大使として講演や愛媛マラソンボランティアなど、社会活動に参加しています。愛媛県支部の森川隆さんの聞き書きから紹介します。

(編集委員 松本律子)

診断を受け、悔しい思いに

松山では、駐車場に置いた車の場所が分からず、警察のお世話になるなど生活上の不安もあり、2018 年秋頃に大学病院を受診しました。診断は、若年性認知症でした。診断されたときは実感がなく、認知症は高齢者の病だと思っていたので、時間が経つにつれ何でこんな病気になったのかと、悔しい思いで落ち込みました。

早期に“繋がり”、病気を受け入れて、前へ

退院する時に、ケアマネジャー、障がい者就労支援 B 型作業所、デイサービス、地域包括、若年性認知症支援コーディネーターなどに繋がり、おかげで、早期から支援者に恵まれて、病気を受け入れることに役立ったと思います。現在、B 型作業所で週 4 回海産物の加工処理や畑仕事等を行い、週 1 回はデイサービスのパワーリハビリで体力をつけています。

当初、兄は、1人での外出に難色を示していましたが、スマホアプリを活用して、大好きなサイクリングや散歩を楽しめており、安心したのか何も言わなくなりました。

病気をプラスに考えて、社会活動に参加

愛媛マラソンのボランティアや三角ベースボールの大会など社会活動にも積極的に参加しています。え

ひめ認知症希望大使を拝命し、様々なセミナーで講演や対談を行っています。地元開催のセミナーで、同級生が聴きに来てくれるサプライズがあり、とても嬉しかったです。

また、昨年は東京での全国希望大使交流会に参加し、同じ境遇の仲間に出会い、大きな励みになりました。改めて認知症へのイメージも変わり、今は認知症になり障がい者となったことをプラスに考えています。

同じ悩みを持つ人の力になりたい!

一生で健常者と障がい者の人生を2つも体験できて、自分はラッキーだと思っています。認知症になってもいろんなサポートを受けて、ボランティア活動や講演など、今までにない新たな道が開けてきたからです。自分は早い段階で様々な支援機関に繋がり、人に恵まれたことで進行も抑えられたのかと思います。診断後、次に繋がることで希望を持って生きることができたので、同じ悩みを持つすべての方が次に繋がれる社会・支援ができればいいな、と思います。



愛媛マラソンのボランティアしています

情報
コーナー

本人交流の場 (詳細は各支部まで)

北海道●3月4日◎13:15~15:30

本人の「つどい」→かでの2.7

宮城●3月7日◎10:30~15:00

本人・若年認知症のつどい(翼)→仙台市泉区南光台市民センター

山形●3月13日◎13:30~15:00

「なのはな」→さくらんぼカフェ

茨城●3月23日◎13:00~15:00

本人交流会→ひたち野リフレ

埼玉●3月16日◎13:30~15:30

若年のつどい・越谷→越谷市中央市民会館

神奈川●3月3日◎11:00~15:00

若年性認知症本人と家族のつどい→

横浜市二俣川地域ケアプラザ

新潟●3月9日◎13:30~16:00

若年性のつどい→新潟市総合福祉会館

静岡●3月5日◎10:00~12:00

若年性のつどい→富士市ロゼシアター

愛知●3月9日◎13:30~16:00

元気かい→東海市しあわせ村

京都●3月24日◎13:30~15:30

若年認知症本人・家族のつどい→ハートピア京都

兵庫●3月9日◎13:00~15:00

若年性のつどい→神戸市立総合福祉センター

和歌山●3月17日◎13:30~15:30

若年性認知症交流会→オークワセントラル

シティ内ひかりサロンリゅうじん

鳥取●3月5日◎15:00~16:00

本人グループ・山陰ど真ん中→わだや小路

広島●3月9日◎11:00~15:30

陽溜まりの会広島→広島市中区地域福祉センター

徳島●3月16日◎13:30~15:30

縁の会→県立総合福祉センター

長崎●3月12日◎13:30~15:30

認知症本人・若年のつどい→させば市民活動交流プラザ

熊本●3月2日◎13:00~15:00

若年のつどい→県認知症コールセンター



✉ お便りお待ちしております！

〒602-8222 京都市上京区晴明町811-3 岡部ビル 2F
「家族の会」編集委員会宛

☎ FAX 075-205-5104

✉ Eメール office@alzheimer.or.jp



<https://bit.ly/45tj93i>

このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。

直前の記憶がありません その後

東京都 Aさん (60歳台 男性)

11月号では、直前の記憶がない妻についての投稿を掲載いただきました。その関連です。

直前の記憶がないアルツハイマー型認知症の妻 (76歳) とその妹の会話です。

妹「最近トイレが近くなって朝まで2〜3回はいくよ、姉ちゃんは？」

妻「私は朝までトイレにはいかないよ」

実は、前夜に妻がトイレに30回以上行ったという話から妹が試したものです。

妻は、頻尿というよりトイレ頻回であって、1〜15分おきにトイレに通うことがあります。

そういうときは取りつかれている感じで、日中は散歩に連れ出して気を紛らわせたりしますが、夜間はそれができず、眠りにつくのを待つだけです。

泌尿器検査でも問題ありませんでしたので、おそらく、トイレに行ったという記憶がないため、尿意や残尿感がリセットされない状態ではないかと推察しております。

ただし、トイレが多かった日は寝不足になるので、翌日は床についてからトイレにも行かず爆睡します。

京都本部に電話相談したところ、そういう人は多いということと、その後の経過としてトイレ頻回は収まるとのことでしたが、それは認知症が進んで、自分でトイレに行くことができず、失禁やオムツの世話になると伺いました。逆に考えると「トイレに行く」という意識と行動がある

うちは、まだよい方かもしれません。なお、水道代は2〜3年前に比べると1.5倍になりました。

自分の為にも

熊本県 Bさん (70歳台 男性)

実弟が若年性の認知症になり「若年性認知症のつどい」に6カ月程参加させてもらい、この会の良さを実感していた。また今回「傾聴」のセミナーを受講する機会があり、コロナも落ち着いてようなので、自分の為にも社会と接触する機会を得る場として入会しました。

本人ではなく、配偶者が受診拒否

岡山県 Cさん (60歳台 女性)

名古屋に住む実姉に認知症状が出現しました。本人も自覚し不安がっています。受診につながれたらと名古屋に行くと、本人ではなく姉の夫が受診を拒みました。そんなことあるんだ……。未だにつなげられず足踏みしています。どういう形で協力できるか悩んでいます。

拒みを一つずつ解決していくようにするしかないのですが、その間に進行していくのではと辛いです。「介護の思いが同じになる」ということは難しいことを初めて知りました。

一人で泊まるのか？

群馬県 D さん (70 歳台 女性)

先日、保育園児の孫がインフルエンザにかかり、私が一日看護に行くことになりました。

夫への感染が心配されることと二人の孫を見ながらの介護は大変であることを考え、以前より考えていたショートステイを利用してみることにしました。

前日の夜ゆっくりと一晚宿泊してほしい旨を説明した時には「じゃ俺は泊りに行くよ」とは言っていたものの、送っていった時には「俺が一人で泊まるのか？」と不安そうな顔をしていました。

実際の様子では自分の部屋という意識はなく、部屋から出て「多分奥様を探していたのだと思います」との職員さんの言われるように、夜中も日覚めると施設内を歩き回っていてあまり眠れなかったようです。

報告書には「夜間の徘徊が見られました」との記載がありました。翌日迎えに行くと本当にうれしそうで、夫にとってはつらい体験だったのだなと感じました。

介護者自身も大切に

愛知県 E さん (50 歳台 女性)

介護中はとても思うことができませんでした。介護も私の人生に必要な時間で、時期も私に必要な時期だったと最近思います。「家族の会」でよく伺ったのは「その状態ずっと続かないから」ですが、介護者である私自身、周りも変わっていき、看取りまで、母は生ききってくれたと今は振り返ります。介護保険のサービスなどでは被保険者中心で話が進んでいきがちですが、介護者、その周りの人生もあっての本人の人生ですので介護者ご自身もどうか大切になさってください。

私と妻と次男で…

神奈川県 F さん (60 歳台 男性)

私の退職以来、伊勢市の別荘で二人暮らしをしていましたが、次男の離婚を機に、次男と二人で、妻の生まれ故郷の横浜で暮らすことになりました。

私は元気なので、食事は主に私が、洗濯は妻が、その他の家事は二人でやってきましたが、この 1、2 年妻の物忘れ、見当識障害、理解力低下などがひどくなって、介護申請することになり、要介護 1 の認定を受けました。しかし、妻は、どうも本気で自分が認知症だとは思っていないようです。伊勢暮らしの時も、自宅のある名古屋近郊の病院に通っていましたが、医者ははっきりせず、横浜に来てからアルツハイマー型の認知症で中期になりかかっているとの最終診断を受けた次第です。

まだしっかりしていて、自分のことは自分でできますが、洋服の整理などがめちゃくちゃで、もう冬なのに半袖を着て平然としていますし、私や次男の下着なども無秩序にしまわれてしまいます。夕方から夜になると、めちゃくちゃに書き込んだ日程表を私のところに持ち込んで、毎日毎日近い過去や未来の日程について、同じことを聞いてきて、うるさくて仕方ありません。

過去の出来事を忘れていて、今日も何月何日何曜日が分かっていないので、毎日何度も説明するのですが、忘れてしまっていてキリがありません。そこで私がイライラしてしまって、伊勢ではよく大喧嘩になりました。その危険を避けるために、次男と三人で暮らし始めたのですが、次男は出勤していて、あまり役に立ちませんが、三人でいると私が冷静になれて少しは良いようです。

今後どうしたらよいかわからないので、皆さんに相談したいと思います。



※お名前はイニシャルではありません。年齢は「50歳台」等で表記しています。